

就任にあたって

～犬飼公営企業管理者から～

4月1日付けで公営企業管理者に就任いたしました**犬飼章**と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、私は平成20年に県経済商工観光部国際政策課長を拝命後、この3月に経済商工観光部長を退任するまでの7年間、主に産業振興や企業誘致に携わってまいりました。

産業振興により県経済の成長を図り、「富県宮城」を実現するためには、経済波及効果（税収・雇用・地元企業との取引拡大）の大きい企業の誘致（特に製造業）が必要であり、そのためには、工業用地に電力（特別高圧）やガス、工業用水といったインフラの整備が欠かせません。こういったインフラと併せ、道路、港湾等の整備によって、これまで本県への企業立地や産業集積が図られてまいりました。

工業用水道は、近年、環境負荷低減やコスト削減のため、工場内でのリサイクル利用が進み使用水量は減少しておりますが、企業にとって必要不可欠な基礎的インフラであることには変わりはありません。水道用水も工業用水も、県民生活や産業活動に不可欠な命の水であり、公営企業管理者への就任に当たり、これらのことを再認識しその重責を感じているところであります。

自然災害の大規模化・多発化、人口減少社会の到来など、企業局の事業を取り巻く環境は今後一層厳しさを増してまいります。橋本前管理者のもと昨年9月に策定しております『宮城県企業局新水道ビジョン』に基づき、「安全・安心な水の確保」、「強靱な水道の確保」、「水道サービスの持続の確保」に、職員一丸となって誠心誠意取り組んでまいりますので、引き続き皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



犬飼 章 公営企業管理者

＜特集＞新水道ビジョンの理念実現に向けて

一水道事業経営管理戦略プランと新経営計画一

宮城県企業局が平成26年9月に策定した「宮城県企業局新水道ビジョン」では、東日本大震災の教訓や大規模化・多発化する自然災害、人口減少社会の到来などを踏まえ、50年、100年先を見据えた今後の水道事業における施策展開の方向性を示しています。

これを基に、平成27年度から今後10年間で取り組んでいく施策及び事業を取りまとめた実行計画として、今年3月に「宮城県企業局水道事業経営管理戦略プラン」を取りまとめました。あわせて、その財源的裏付けとなる今後10年間の投資・財政計画など、経営戦略を取りまとめた「宮城県企業局新経営計画」を策定しました。

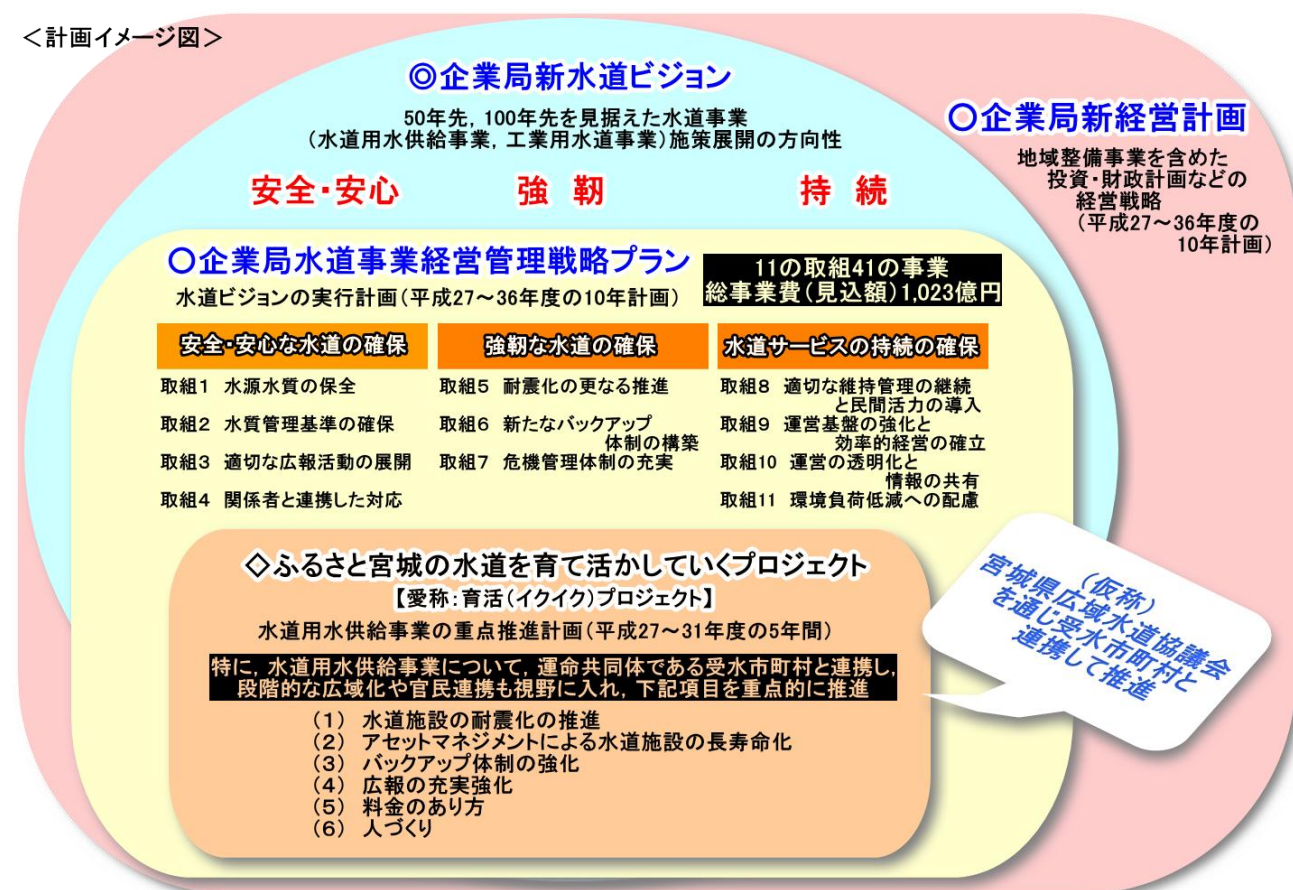
水道事業経営管理戦略プランでは、新水道ビジョンの施策目標を達成するため、今後 10 年間に取り組む 11 の施策（取組）と 41 の事業を掲げ、平成 36 年度までの 10 年間の総事業費は、1,023 億円を予定しています。

一育活（イクイク）プロジェクトによる重点展開一

特に、水道用水供給事業については、各家庭・事業所への給水を実際に担っている受水市町村と連携した取組が不可欠であることから、現在ある大崎と仙南・仙塩の各広域水道協議会を統合した「(仮称)宮城県広域水道協議会」を新たに設置し、この協議会を推進母体とした「ふるさと宮城の水道を育て活かしていくプロジェクト（愛称：育活（イクイク）プロジェクト）」を立ち上げ、将来的にも持続可能な水道事業の実現を目指していきます。

具体的には、①水道施設の耐震化の推進、②アセットマネジメントによる水道施設の長寿命化、③バックアップ体制の強化、④広報の充実強化、⑤料金のあり方、⑥人づくり、の 6 つの取組について、今後 5 年間の礎期として重点的に推進していきます。

<計画イメージ図>



今後、これらの計画に基づき、県民の皆様、受水市町村や受水事業所等との連携のもと、将来にわたる水道の安定供給に果敢に挑戦していきますので、皆様のこれまで以上のご支援ご協力をお願いいたします。

「水道事業経営管理戦略プラン」及び「新経営計画」は企業局のホームページからご覧いただけます。

(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kiogyo/purantokeieikeikaku.html>)

《シリーズ》東日本大震災からの教訓 第8回

東日本大震災の記憶の風化を防ぐため、企業局の当時の対応をメインに多面的な視点から震災関連記事連載していくシリーズです。

第8回目は、浄水場（建物等）被害についてお送りします。

浄水場（建物等）被害

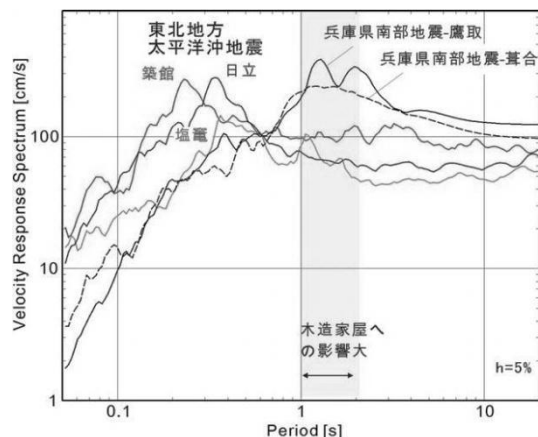
平成23年3月11日東北地方太平洋沖地震が発生し、宮城県内では最大震度7を観測しました。この地震の特徴としては**地震動の継続時間が非常に長かった**ことと、地震発生から数分後、沿岸部で**巨大津波が発生**したことです。そして**地震動自体にも特徴**がありました。今回の東北地方太平洋沖地震と同程度の震度を記録した兵庫県南部地震（平成7年発生）との比較でそれは顕著に現れます。

東北地方太平洋沖地震で最大震度7を記録した宮城県栗原市の**築館地点では建物の全壊率が0%**であるのに比べ、兵庫県南部地震で最大震度6強を記録したJR西日本鷹取駅地点の**全壊率は59.4%**となっており、**建物の被害に大きな違い**があります。この2つの地震動で一番の違いは『**周期**』

でした。東北地方太平洋沖地震では周期が0.5秒以下の揺れが多く、兵庫県南部地震の方は1~2秒周期の揺れが多かったことが分かっています。**建物の被害に結びつくのは「キラーパルス」と呼ばれる1~2秒周期の揺れ**とされており、東北地方の他の測定地点でも0.5秒以下の周期の揺れが多かったため、地盤の液状化や地滑り等を伴うもの以外の建物被害はさほど生じませんでした。もちろん、兵庫県南部地震以降、建築物の耐震基準が引き上げられ、大規模地震に対する備えが増したことも被害が少なかった要因と思われます。

宮城県企業局が所管する5か所の浄水場（上水3か所、工水2か所）については、比較的強固な地盤に建設されていたこともあり、沈殿池に設置されている**傾斜板のフレームや取付用部材、管理棟空調機配管等の損傷**があった程度で**致命的な被害は無く**、地震直後から浄水処理を継続することができました。これにより管路施設等の漏水復旧（断水）期間でも、**市町村や自衛隊等の要請に応じ給水車へ合計1,987tの飲料水を提供**することができました。

このように今回の東北地方太平洋沖地震では、浄水場の基幹土木施設は**軽度の被害で済みましたが、今後も大丈夫とは限りません**。そのため、基幹土木施設で耐震化が必要なものは水道事業経営管理戦略プランに基づき**計画的に耐震化工事を進め、『安全・安心な水』の供給を目指して**いきます。



応答スペクトルの比較表

出典：東京大学地震研究所 HP



「恵水不盡 東日本大震災から復旧・復興に向けた宮城県企業局の対応と取組」を公開しました。

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kigyokiyokuhigashinihondaishinsai.html>

企業局のTOPICS

—40周年記念フォーラム—

平成27年1月29日、宮城県庁講堂を会場に宮城県企業局40周年記念フォーラムを開催しました。

このフォーラムは、平成26年4月に企業局発足40周年を迎えたことを機に、恵水不盡（けいすいふじん）プロジェクトとして水道ビジョン等各種計画の策定や40年誌の編さん、パネル展開催等の広報活動を行ってきた集大成として実施したもので、『「恵水不盡」東日本大震災から未来へ』と題し、東日本大震災や人口減少社会の到来を踏まえた今後の水道事業の展開について、有識者による基調講演及びパネルディスカッションを行いました。

水道関係団体ほか多くの団体からの後援のもと、当日は定員いっぱいの約300人の方々にご参加いただき、来場者の皆様とともに水道事業の未来を考える貴重な機会となりました。

当日の講演内容等は、開催報告書として取りまとめ、当企業局ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。

(<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kiqyo/40forum.html>)



フォーラム会場の様子

—連絡管着手式—

仙南・仙塩広域水道は、仙塩地区への送水管（高区系）と仙南地区への送水管（低区系）に分かれて給水していますが、現在の送水管は単一方向の管路であることから、低区系管路上流で漏水事故が発生した場合、下流側全域で長期間に渡り送水停止を起すリスクがあります。

そのリスクの低減と水道用水の安定的な供給を確保するため、高区系と低区系の間13.1kmを結ぶ連絡管を総事業費約90億円で整備することとし、これまでルート選定や調査・設計を行ってきましたが、平成27年3月26日に岩沼市内にて着手式を開催しました。

当日は受水市町長や県議会議員、市町議会議員等の皆様の出席のもと、くす玉開披などを執り行ない事業の早期完成を祈念しました。

また、着手式に先立ち、連絡管整備事業での最初の管路敷設工事の安全を祈願して、工事請負者主催の工事安全祈願祭も執り行われました。



くす玉開披後の様子

< 編集後記 >

本誌メビウスをご覧くださいありがとうございます。4月は別れや出会いの季節ですが、皆様の職場ではいかがでしょうか。当企業局のメンバーにも変化はありましたが、今年は例年になく異動者が少なかったように感じました。

新しい犬飼管理者のもと、引き続き本誌メビウスを発行してまいりますので、今後もよろしくお願ひします。

【第8号編集担当・お問い合わせ先】

水道経営管理室広域水道班 伊藤 允紀

電話:022-211-3417

E-mail:kigyo@pref.miyagi.jp

【企業局の情報はこちら】

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/16.html>

【メビウスのバックナンバーはこちら】

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/suido-kanri/mebiusu.html>